



【グレイス・ガーデンに咲く花々の様子】※令和7年8月撮影



- I. 脊椎外科診療のご紹介【整形外科】
- II. 泌尿器科診療のご紹介【泌尿器科】
- III. がん化学療法にかかわる薬剤師【薬剤部】
- IV. 尿検査のはなし【中央検査室】
- V. 第26回永山フェスティバルに参加しました！【看護部】
- VI. 看護師による相談外来のご紹介【看護部】
- VII. 救命救急センターでのグリーンケアのはなし【看護部】

I. 整形外科の脊椎外科診療のご紹介！【整形外科】

充実した整形外科体制で皆様をサポート

当院整形外科では、常勤医師6名が連携し、外来診療から入院治療まで幅広い整形外科疾患に対応しております。2024年10月より、私、山口が脊椎外科医として赴任し、脊椎疾患の専門治療を一手に担当させていただいております。最新の技術と豊富な経験を活かし、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供いたします。

腰部脊柱管狭窄症の治療

腰部脊柱管狭窄症は、腰の骨の中を通る神経の通り道が狭くなることで、歩行時の足のしびれや痛みを引き起こす疾患です。「歩くと足が痛くなり、休むと楽になる」という症状が特徴的です。

当院では、薬物治療やリハビリテーションで改善が見られない場合、椎弓切除術や腰椎後側方固定術といった手術治療を行います。椎弓切除術では狭くなった部分を広げ、神経への圧迫を取り除きます。腰椎後方固定術では、不安定になった背骨を金属で固定し、長期的な安定性を確保します。



頚椎症性脊髄症の治療

頚椎症性脊髄症は、首の骨の変形により神経が圧迫され、手のしびれや歩行障害を引き起こす疾患です。重症化すると日常生活に大きな支障をきたします。

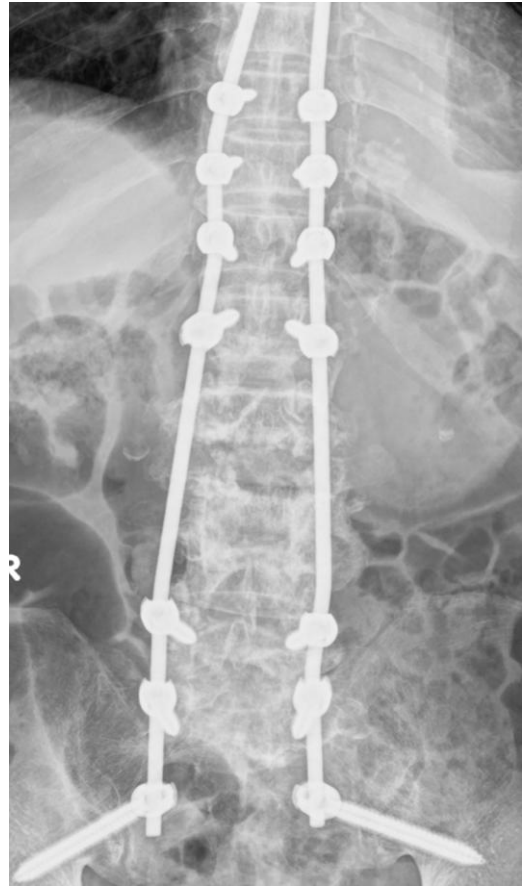
治療では、首の後方から手術を行う頚椎椎弓形成術を実施しています。この手術では、神経を圧迫している部分を取り除き、神経の通り道を広げることで症状の改善を図ります。傷口も比較的小さく、患者さんの負担を軽減できる治療法です。



圧迫骨折や脊椎感染症の治療

骨粗鬆症による圧迫骨折や脊椎感染症も、当院で積極的に治療している疾患です。

圧迫骨折に対しては、BKP（バルーン椎体形成術）やPPS（経皮的椎弓根スクリュー）といった低侵襲治療を行います。これらの治療では、背中小さな傷から骨折した椎体にセメントを注入し、スクリューで固定し痛みを軽減します。感染症に対しては、内視鏡で洗浄し、後方固定術により感染部位を清浄化し、脊椎の安定性を回復させます。



地域の皆様の健康な生活を支えるため、私たちは日々研鑽を積んでおります。脊椎の痛みや症状でお困りの際は、お気軽にご相談ください。

整形外科（山口 雄士）

Ⅱ. 泌尿器科診療のご紹介【泌尿器科】

▶がん、結石や排尿障害など多種多様な泌尿器疾患に対応
新薬やロボット手術も活用し最適な医療を実践します。

日本医科大学多摩永山病院泌尿器科は、佐藤部長、尾形医局長、松岡医員、井熊医員、金子医員の5名体制で、外来・病棟・手術・夜間対応を行っております。

対象疾患は泌尿器疾患全般であり、特に腎細胞癌・尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌などの泌尿器悪性腫瘍、男性排尿障害、尿路結石を専門的に診療しています。

近年、前立腺癌は日本人男性において胃癌を抜き、罹患率第1位の疾患となりました。当科にも多くの患者さんが紹介受診され、エビデンスに基づいた診断と治療を行っております。検診でPSA高値（前立腺癌の腫瘍マーカー）を指摘された際には、どうぞお気軽にご相談ください。

また、令和5年より手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入し、前立腺癌、腎細胞癌、膀胱癌に対して低侵襲かつ精密なロボット支援下手術を開始しました。従来法と比較して手術時間の短縮や出血量の軽減など多くの利点があり、患者さんにとってより安全で負担の少ない治療を提供できるよう努めています。

腎細胞癌に対しては、免疫チェックポイント阻害薬をはじめとする新規薬剤を積極的に導入しています。また、無症候性肉眼的血尿で受診された患者さんには即日膀胱鏡検査を実施し、尿管癌・膀胱癌と診断された場合は同日中に手術日を決定できる体制を整えています。さらに、連携病院でのMRI検査を活用した術前診断の精密化にも力を入れており、個々の症例に最適な治療方針を検討しています。

泌尿器悪性腫瘍を罹患されたすべての患者さんに対しては、がん看護専門看護師やがん化学療法看護認定看護師などのコメディカルスタッフと連携し、チーム一丸となって包括的な診療を行っております。

腰背部痛や側腹部痛で尿路結石を疑われる紹介患者さんの中には、強い疼痛を伴う方も多く、迅速な対応が求められます。当科では、発作早期の体外衝撃波結石破碎術（ESWL）を即日実施できる体制を整え、エビデンスに基づいた治療で高い排石率の実現を目指しています。

今後も地域医療機関との密な連携を重視し、患者さんとともに安心してご満足いただける医療を提供してまいります。お困りの症例や時間外の診察にも柔軟に対応いたしますので、どうぞお気軽に泌尿器科外来までお問い合わせください。

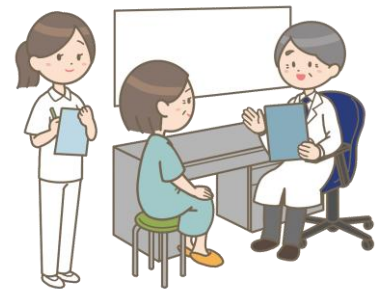
Ⅲ. がん化学療法にかかわる薬剤師【薬剤部】 ～より身近な薬剤師さんをめざして～

当薬剤部は33名のスタッフが在籍し、お薬の調剤にとどまらず、お薬の関係する場面では多くの業務を展開しています。特にがん治療においては、入院患者だけでなく外来患者においても、安心・安全ながん治療が行えるよう薬剤師が積極的に日々業務にあたっています。



入院や外来で抗がん薬治療を受けられる患者さんに対して、抗がん薬が安全に投与されるために投与量、投与スケジュールのチェックや注射薬の準備（ミキシング）を行っています。また、抗がん薬などの説明や副作用の発現状況を患者さんと会話し、医師・看護師などの医療スタッフと連携して副作用の対策や治療にも関わっています。患者さんのみならず、医療スタッフからの抗がん薬の質問にも対応しており、治療が安全・安心のもと円滑に進むように支えています。

外来では2014年の診療報酬改定により、がん患者指導管理料3(現行ハ)が新設され、当院でも2015年から患者指導を開始しています。薬剤師による外来患者への指導業務は全国的に普及してきていますが、当院では外来診察時に薬剤師が同席することが特徴です。患者さんが抗がん薬治療を受ける診察前に現在の症状や治療への不安なことを直接聞き取り、診察時に同席して主治医と相談しながら処方提案を行っています。現在はすべての患者さんには対応できていませんが、今後は活動をより拡大したいと考えています。



地域の基幹病院として、薬剤師もより身近な存在となれるよう積極的に関わってまいります。よろしくごお願い致します。



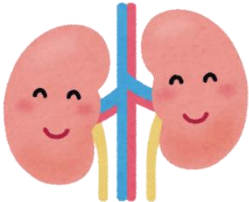
IV. 尿検査のはなし【中央検査室】

尿検査とは？

尿（おしっこ）を使用して、体の状態や病気の有無を調べる検査です。体の中で不要になった老廃物や余分な水分は、腎臓でろ過され尿として排泄されます。

尿検査を行うことで、腎臓や体の健康、病気のサインがわかります。

何のために検査するの？



- ・糖尿病や腎臓の病気を見つける。
- ・膀胱炎などの炎症が起きていないかを調べる。
- ・水分が足りているかを調べる。
- ・尿に血が混じっていないかを調べる。

尿検査を受ける際の注意事項

・激しい運動をしない

一時的に筋肉や腎臓に負担がかかり、尿にタンパクや血液が混じる可能性があります。

・尿のコップ（ハルンカップ）の内側は触らない、水で洗わない

コップの内側を触ると雑菌が付着したり、手の皮脂が混ざったりする可能性があります。

また、コップを水で洗うと尿が薄まって本来の結果が測定できない可能性があります。

・緑茶やレモン等のビタミンCを多く含む食品・飲料を控える

ビタミンCによって、尿の試験紙の反応の邪魔をして結果が偽陰性になる可能性があります。

・採尿のタイミングを守る

起床直後に採尿する早朝尿と起床直後以外で採尿する随時尿があります。

採取するタイミングが異なりますので注意してください。

また、随時尿では排尿の最初と最後を除いた中間尿を採取してください。

特に女性では膣由来の成分が混入する可能性があります。



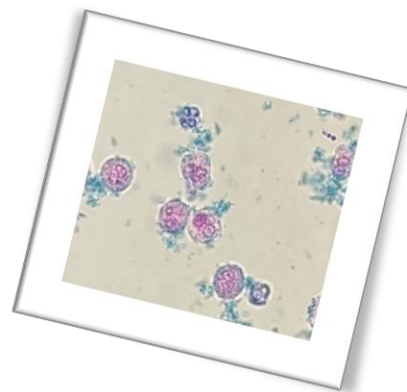
～尿中成分のご紹介～

尿は黄色っぽい見えますが…

尿中には赤血球や白血球など目には見えない小さな細胞がたくさんいます。私たち臨床検査技師はこれらの細胞を染色し、色をつけて顕微鏡で見えています。私たちが見ている尿中成分をいくつかご紹介します。

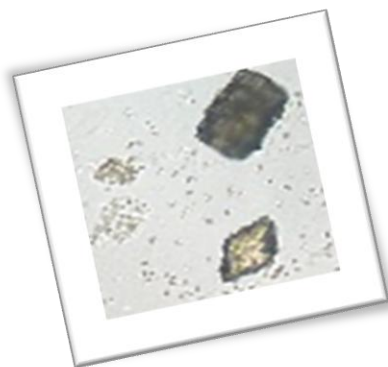
白血球

白血球は病原体の排除をしており、尿中では小さくて丸く見えますが病原体と戦うときに伸びたり突起を出したり、形を変えることもあります。尿路感染症や腎炎などの炎症が起こると尿中に多量に見られます。



尿酸結晶

黄色っぽいダイヤモンドみたいな形で健康な人でも高タンパクな食事をした後や尿が酸性に傾いたとき、脱水時に見られることがあります。尿中に多量に見られる場合、高尿酸血症や痛風、尿酸結石のリスクが高いです。



シュウ酸カルシウム結晶

キラキラ光る小さな箱みたいな形や砂時計みたいな形で尿中で最もよく見られる結晶です。

健康な人でもシュウ酸の多い食事（ほうれん草、チョコ、ナッツなど）を食べた後で見られます。

多量に尿中に見られる場合、尿路結石のリスクが高いです。



尿検査は「簡単・痛くない」検査で尿を調べることで腎臓や体の健康状態、『病気のサイン』がわかります。検査をする際の注意事項に気を付けて頂くとより正確な結果が得られます！

V. 第26回永山フェスティバルに参加しました！【看護部】

✿ 地域とつながる「山桜の会」✿

多摩市内の7病院（天本病院・桜ヶ丘記念病院・島田療育センター・多摩中央病院・都立多摩南部地域病院・聖ヶ丘病院・当院）の看護管理者で結成した「山桜の会」は、9月20日・21日に開催された「永山フェスティバル」に参加しました。

9月21日には、多摩永山病院から看護部長、副看護部長、老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師が参加し、地域の皆さまと交流を深めました。当日は「こころとカラダの健康相談」をテーマに、2つのブースを設けました。【楽しく体験】ブースでは、お子さまから大人まで楽しめる体験として、こども看護体験やミサンガづくり、塗り絵、白衣試着撮影会を行いました。約70名の子どもたちが参加し、楽しいひとときを過ごしました。【健康チェック】ブースでは、日々の健康づくりを支えるために、健康相談、血圧測定、フレイル予防のアドバイス、脳トレ体験を行いました。20名の方がご来場くださり、薬の飲み方、喫煙、体重管理、物忘れ、介護などについてのご相談が寄せられました。

今回のフェスティバルでは、たくさんの方々にご参加いただき、地域とのつながりを改めて実感することができました。今後も「山桜の会」は、地域の皆さまとともに、安心して暮らせる健幸まちづくりを目指して活動を続けてまいります。皆さまのご参加・ご協力、誠にありがとうございました！

健康チェック



楽しく体験



永どんと一緒に

VI. 看護師による相談外来のご紹介【看護部】

外来看護師は、通院患者の在宅療養支援と継続的な看護に力を注ぎ、地域での暮らしを支える看護の提供を目指しています。外来では、看護相談外来を行っています。看護相談外来とは、専門的な知識や技術を持つ看護師が、患者さんやそのご家族の療養生活における悩みや不安を聞き、ケアの指導、情報提供などを行う外来です。

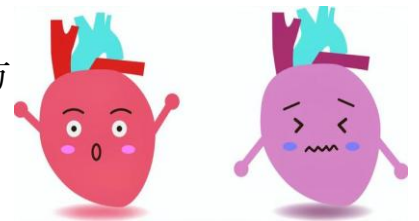
今回は、内科外来で行っている心臓病外来、糖尿病外来、腎代替療法指導外来についてご紹介します。

心臓病外来 「始めよう、心臓のための新習慣」

生活習慣病を指摘されてから、ゆっくりと心臓病へ進行していきます。心臓病を発症した後のセルフケアが重要となるため、無理なく継続できる方法を考え、サポートします。

【対象者】

- * 高血圧症や脂質異常症などの生活習慣病を指摘された方
- * 心筋梗塞や心不全などの心臓病を指摘された方
- * 心筋梗塞や心不全の治療が必要な方



【行っていること】

- * 心臓病の原因や予防方法、食事上の注意点などについて説明します。
- * セルフケアに必要な情報提供を行い、継続できる方法を一緒に考えます。
- * 継続できるように手帳を活用しながらサポートを行います。
- * 外来受診前に、身体診察を行い症状の確認を行います。

【外来日】

- * 適宜、対応しています。

糖尿病療養 指導外来 「セルフケア、頑張りすぎいませんか？」

初めて糖尿病を指摘されたり、頑張ってるはずなのに検査結果が悪くなったりという経験ありませんか？そんな疑問に思うことや困っている事など伺いながら進めている外来です。

糖尿病はセルフケア疾患と言われ、日常生活が治療の場となります。無理なく治療が継続できるようサポートします。

【対象者】

- * 糖尿病を指摘されインスリン治療が必要な方
- * それ以外にも医師が必要と考え予約をされた方



【行っていること】

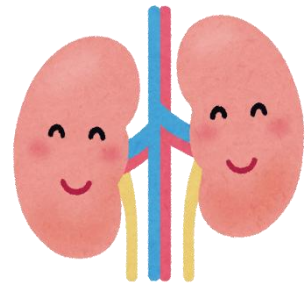
- * 日常生活の状況をお聞きして生活の中で取り入れられる治療の方法を一緒に考えます。
- * 血糖測定やインスリンなどの手順の説明をします。
- * 血糖の変動や原因を一緒に考え、調整します。
- * 足の手入れ方法や観察方法など説明します。
- * 食事が食べられない時や低血糖の時の対処方法を説明します。
- * 疑問に思うことや困っている事をうかがい一緒に方法を考えていきます。

【外来日】

- * 毎週木曜日 午後12:30から予約制で実施しています。

腎代替(じんだいたい)療法 指導外来 「腎臓のこと、お話しませんか？」

腎臓は物言わぬ臓器と言われ、老廃物の排泄、血圧のコントロール等様々な役割を持ち他の臓器と同じように不眠不休で働いています。慢性腎不全になると、数カ月から数十年かけて、腎機能が徐々に低下していきます。



最終的には、腎移植や透析療法が必要になりますが「知らない」「知らされない」ことで、治療への恐怖や不安が強くなるよう腎臓病や透析について情報提供しています。ご自身の生活と照らし合わせながら、生活に沿った治療選択と安心して治療が継続できるようサポートします。

【対象者】

- * 腎機能が低下し、今後透析などの治療が必要な方
- * 医師が必要と判断し予約をされた方

【行っていること】

- * 現在の腎臓の状況を一緒に確認しながら、なぜ透析の準備が必要なのか説明します。
- * 腎臓の機能を代替えるための治療について説明します。
(血液透析・腹膜透析・腎移植についての情報提供)
- * 写真やパンフレット、実際の器械などを見てイメージして貰いながらライフスタイルに合った方法を選択して頂けるよう心掛けています。

【外来日】

- * 毎週火・金曜日 午前 予約制で実施しています。

Ⅶ. 救命救急センターでグリーフケアのはなし【看護部】

当院の救命救急センターでは、大切な人とのお別れを経験されたご家族様を対象としたグリーフケアを行っています。



グリーフケアとは？

グリーフとは、大切な人を喪失した時に経験する、深い悲しみや、それに伴う様々な心身の反応全般を意味する言葉です。グリーフという言葉の中には悲しみや苦悩、怒りなどの情緒的な反応だけではなく、眠れない、食べられないといった身体的な反応や、何もする気が起きない、今まで通りの生活が営めないといった社会活動に関する反応も含まれます。

グリーフケアとは、こうした喪失を経験した方々に心を寄せ、寄り添い、新たな日常に適応していけるように支援する取り組みのことです。

グリーフケアチームの取り組み

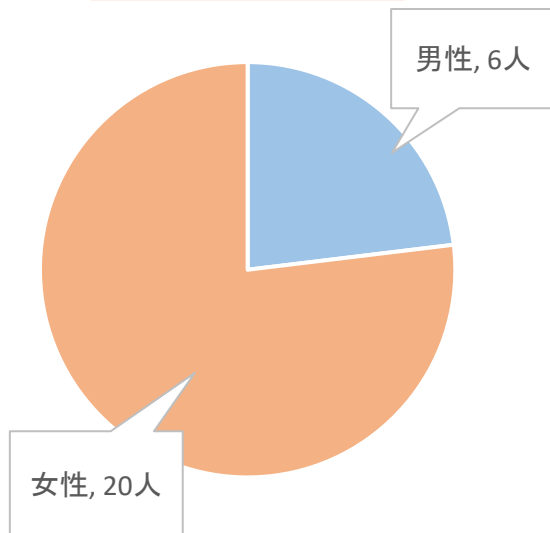
救命救急センターは、怪我や病気によって命の危機に瀕している患者さんを受け入れ、治療を行う病棟です。救命処置や集中治療の結果、一命を取り留める方もいれば、残念ながらお亡くなりになる方もいます。こうした、突然の予期しない大切な人とのお別れは、残された人に強い衝撃を与え、ストレスの原因になるとされています。突然のお別れはグリーフを強く複雑なものにするとも言われています。

当院の救命救急センターでは、こうしたお別れを経験した方が、少しでも心穏やかに大切な人を失った後の生活を送れるようにするために、退院時にグリーフに関するパンフレットをお渡ししたり、退院から三ヶ月程度を目途にお見舞いの手紙を郵送したりする取り組みを行っています。また、ご家族様からの希望に応じて、救命救急センターの看護師や臨床心理士（公認心理士）が面談を行ったりもしています。こうしたグリーフケアを行っている救命救急センターは、全国でも非常に珍しいと言われています。

グリーフケアチームの活動実績

2020年4月より、退院時にグリーフに関するパンフレットの配布を行っていましたが、それに加えて2024年10月より、退院から三ヶ月程度を目途にお見舞いの手紙を郵送する取り組みも行うようになりました。特にお見舞いの手紙に対してご家族様から返信や相談をいただくことが多いため、今回はお見舞いの手紙に関する活動実績を報告いたします。

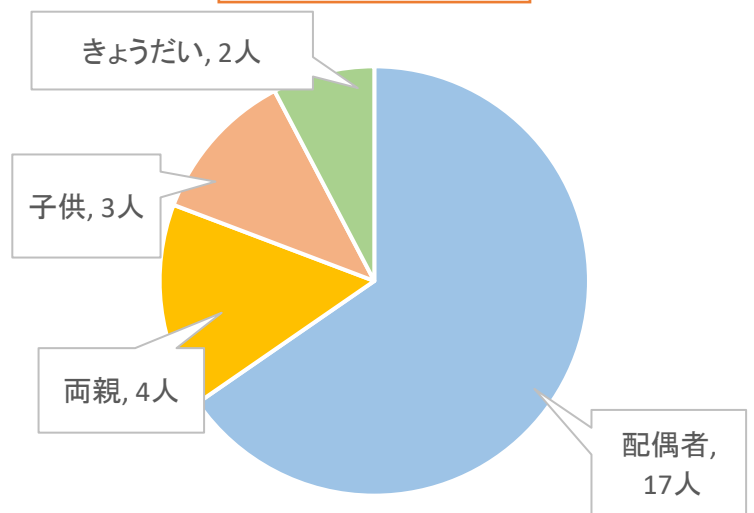
主な相談者の性別



女性からの相談の方が多いのですが、患者さんの性別は男性の方が多いため、割合だとそこまで大きな差はありませんでした。

救命救急センターには、小児から高齢者まで幅広い患者さんが運ばれてきます。相談に訪れる方も、それを反映したように多様な背景をもっています。

主な相談者の続柄



相談の内容と対応について

いただいた相談内容と、それに対するグリーンケアチームの対応をいくつか紹介いたします。相談内容は内容が損なわれないように配慮しつつ、個人が特定されないように表現の調整を行っていますのでご了承ください。

病院ではどのように手当てをしていただいていたのか、たった数日の入院でしたけれど本人のその時の状態のこと、お話を伺えましたら嬉しく思います。

⇒看護師が面談を実施し、入院するまでの経過や、入院中に行われた処置、ケアなどについてご家族様にお話しいたしました。ご本人様の好きだった音楽のこと、得意だったこと、ご家族様にとってどのような方だったのかなど、入院している時には伺えなかったお話をお聞かせいただきました。

先日お手紙いただきました。ご心配頂き恐縮に存じます。お手紙の趣旨は分かりましたが、何分具体的な内容がつかめませんので、一度お話をお聞きしたいと思っております。

⇒看護師が面談を実施し、今の生活についてのお話を伺いました。長年連れ添った奥様を亡くした悲しみや、人生がそこで突然途切れてしまったような感覚に戸惑っていること、仲の良い家族だからこそ、弱っているところや涙を流しているところを見せられないと思ってしまうことなどを伺いました。

編集後記

秋風が心地よく、木々の色づきに季節の移ろいを感じる頃となりました。今号では、脊椎外科・泌尿器科の診療紹介をはじめ、がん化学療法に携わる薬剤師の役割や、日常的ながら重要な尿検査について取り上げました。また、看護師による相談外来の取り組みや、救命救急センターでのグリーンケアなど、患者さんとご家族に寄り添う医療の姿もご紹介しています。地域とのつながりを大切に、今年も第26回永山フェスティバルに参加し、多くの方々と交流する機会を得ました。医療は人と人とのつながりの中で育まれるもの。これからも皆さまの健康と安心を支える情報をお届けしてまいります。朝晩の冷え込みが増す季節、どうぞご自愛ください。

広報委員会委員長 北川 泰之



日本医科大学多摩永山病院 看護部
Instagramページ こちらから



ほっと多摩

📞バックナンバーは
こちら



日本医科大学 多摩永山病院
NIPPON MEDICAL SCHOOL TAMANAGAYAMA HOSPITAL

広報委員会事務局

☎206-8512

東京都多摩市永山1丁目7番地1

☎042-371-2111 (代表)